

障がい者委員会

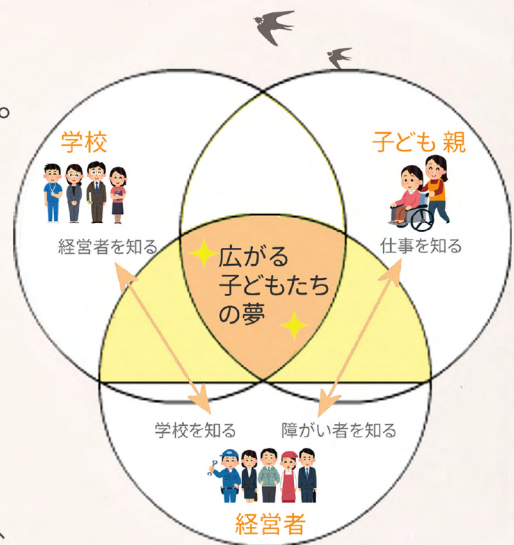
障がい者委員会の理念
人を生かす経営を地域の文化に

Q. 障がい者委員会って何をしているの？
A. 地域の子どもの可能性を広げています。

●障がいをもつ子どもの未来の選択肢は少ない

障がいをもつ子どもは一般企業へ就職することが少ないのが現状です。就職先もスーパーなどの品出しや清掃業務など限られた仕事になっています。障がいをもつ子どもが多く通う特別支援学校の先生や子どもは地域にどんな企業があるかあまり知らないです。

また、経営者も障がい者のことをあまり知らない方が多いので、当然良いマッチングが成立することが少ないです。



●障がい者委員会の活動内容

現状を踏まえ、障がい者委員会は経営者、学校、障がいをもつ子どもがお互いを知ることこそ子ども達の夢を広げる第一歩と捉え

- ①特別支援学校見学（定期的に学校を見学し、理解を深める）
- ②仕事体験（色々な仕事体験をする場を作り、子どもの可能性を広げる）
- ③ミニ勉強会（テーマを決め、障がいについての理解を深める）の実施を行っています。



仕事体験

●中小企業経営者にできること

地域の子どものこんな仕事がある!こんな仕事をしてみたい!という未来は我々地域の中小企業経営者しかその姿を見せることができません!!
一緒に子どもたちの夢を広げていきませんか?

次回予告 >>

障がい者委員会の具体的な活動内容



障がい者委員会

ある方の一言で始まった企画「障がい者委員会ってどんなことをしてるの？」
前回、昨年9月号で障がい者委員会の概要をお伝え致しました。今回は、障がい者委員会の活動方針についてご紹介します。

活動方針

誰もが『違い』があり、互いに『違い』を知り、わかり合おうとすればそこに温かい空気が生まれる。

理念

人を生かす経営を地域の文化に！

・「夢をあきらめる」

盲学校の子供たち

小学生、中学生の時は夢にあふれているが、いざ高校生になり進路のことを考えるとき夢をあきらめなければならない…。
企業家として何か出来ないの？

現

・「私たちが死んだあと、不安でたまらない」

障がい者・家族

子どもの成長とともにいつまで我が子を守ってあげることが出来るか不安でたまらない。
地域で子ども達が安心できる環境はつくれるの？

状

・夢をつなげることが出来る！

1800社=1800種類の夢
仕事体験フェア(企業)×子供たち(と親)
⇒夢つながる！
⇒企業見学、実習受入、採用

できること

ひとりひとりが生きる

よい会社をつくらう！ ⇒ よい会社をつくれる！
よい経営者にならう！ ⇒ よい経営者になれる！
よい経営環境をつくらう！ ⇒ よい経営環境が出来る！

SDGsを中核とする2030アジェンダは
「誰一人取り残さない」ことを理念に
女性、子ども、障がい者、高齢者、移民



ダイバーシティ経営は
「個々の多様な能力を最大限に引き出す
ことで、イノベーションを生み出す」



「人を生かす経営」

夢をつなげる！
誰ひとりとり残さない！

企業家の私達にしか できないこと

- 特別支援学校見学会(仕事体験フェア含む)
⇒(実習受入企業マップ作成)
- 児童養護施設見学会
- ミニ勉強会(SDGs含む)
- オール兵庫分科会
- 障がい者問題全国交流会(中同協)
- 人を生かす4委員会アンケート
(見学、実習、委託作業、超短時間、雇用)

シリーズ企画目次

- [1]委員会概要(2020年9月号)
- [2]委員会活動方針(2021年1月号)
- [3]障害とは
- [4]活動内容
- [5]見学会や体験、雇用までの流れ
- [6]体験談

次回見学会予定

2021年2月3日神戸市立青陽東養護学校

※見学会、障がい者委員会入会申込先 兵庫県中小企業家同友会事務局 ☎078(241)1230

障がい者委員会

あなたの知らない障がい者について



みなさん知っていますか？

日本には936.6万人の障がい者がいます。人口の7.4%です。5年前より約150万人増えています。

“障がい”という言葉を知ると「よくわからない」「かわいそう」「電車で騒いで怖い」「発達障害って言葉よく聞くな」「自分とは関係ない」「余裕のある会社は関わればいい」などなど、いろんなイメージを連想するかと思います。

ただ、日本では本当の障がい者の状況について、冒頭の人口データのように正しく知っている人はとても少ないです。

この記事では、データを中心に障がいについてわかりやすく説明していきます。

【障がい者はどんな人のことを言うの?】

まずは「障がいの区分」です。以下のように①身体障害、②知的障害、③精神障害の3つの“障害者手帳”があります。この手帳を持つ人が原則、障がい者となります。

とっても簡単に分類すると①身体②学習③心の障がいと分かります。詳しい分類、経緯、人口は下の表でご確認ください。

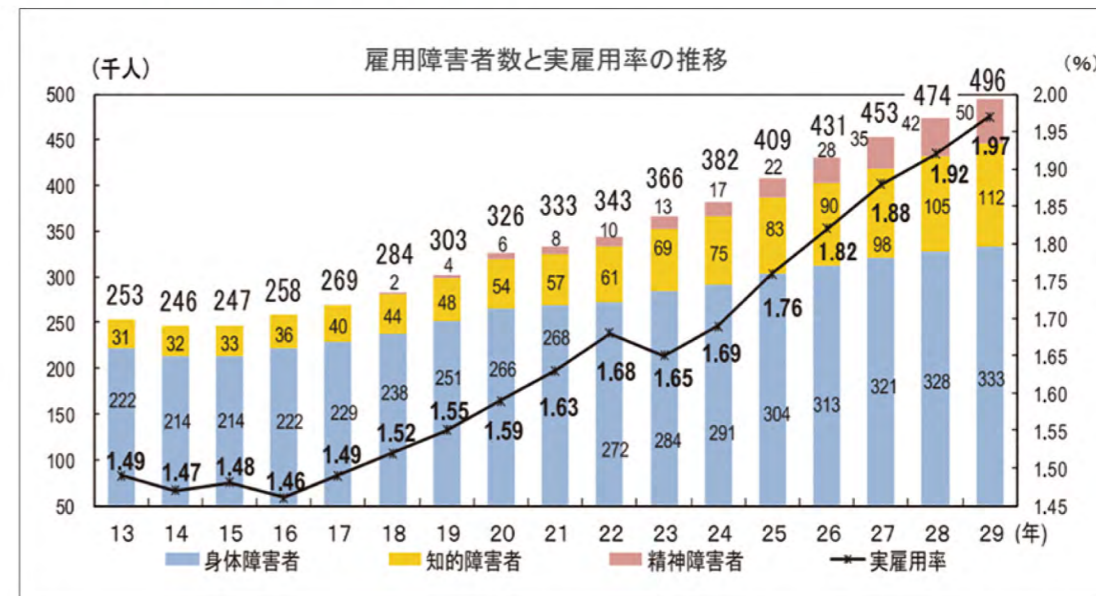


※精神障害は手帳がなくても通院等で障がい者人口に入ります。

【障がい者の仕事の現状】

現在は約50万人の障がい者が仕事をしています。年々、雇用する企業が増えていますが障がい者全体のわずか6%しか働いていません。実状としては、「働きたい」と希

望する障がい者がいるのに社会で活用しきれていないのです。この原因は様々なことがあるかと思いますが、社会の“無知”“無関心”が大きいともされています。



【障がい者×企業家の未来】

そもそも人口は減るのに、なぜ障がい者が増えているのでしょうか？

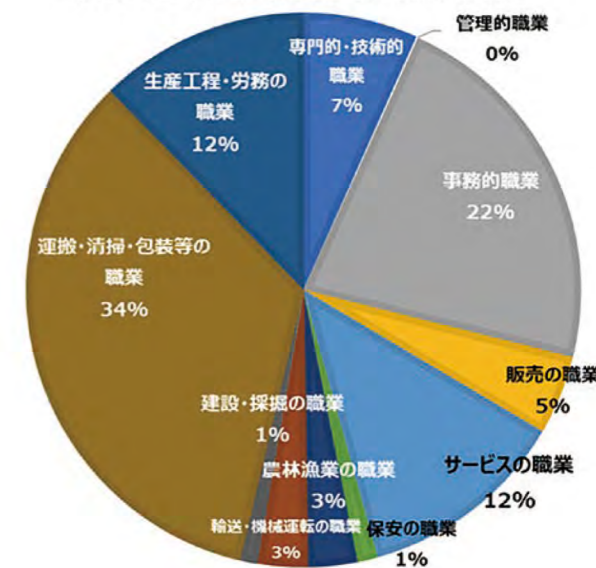
2つの仮説が言われています。①医学が進歩し、診断名が付けられるようになったため以前は普通に、街に、学校に、会社にいた人までカテゴリー分けされるようになった。②産業の変化によって農業など1次産業での働き方の種類が減り、資本主義も目の生産性の追求が求められるようになったことなど日本社会の器が小さくなった。このことが、これまで機能していた人を排除し“ショウガイ”を増やしているという説です。

ショウガイシャの増加とは本人達だけの問題でなく、我々、企業家であり社会の器も関係しているのかもしれない。

SDGs、ダイバーシティ、働き方改革などあらゆる社会変化を乗り越えるために必要なことは、スタッフを人材として育成できる仕組みやアイデアを持ち、「多様性があり誰もが機能する企業にアップデートすること」です。その未来への戦略となるヒントを障がい者が教えてくれます。

まずは、「無知・無関心」を自覚し、「みる・きく・ふれる」。障がい者委員では毎月1回定例会とプチ勉強会を開催しております。また様々な学びの場を開拓しています。興味、関心ある方は気軽に事務局にご連絡ください。

平成30年度 職業別の紹介状況



就労支援施策の対象となる障害者数/地域の流れ

